

ライスセンター予約 スマホで

三重県のJA伊勢は7月から、スマートフォンなどで共同乾燥施設の利用申し込みができるようにした。2023年産米のライスセンター、カントリーエレベーターの利用が対象。これまでの紙の申し込みに比べて、生産者、JAとも大幅に手間を減らすことができる。

生産者はスマホでQRコードを読み取り、ネット上にデータを集約するクラウドサービスにアクセス。施設の利用希望日や保有米数量を入力する。

管内の水稲生産者866人の施設利用希望日を全てデータ化できる。JAにとっては、施設利用の多い時期を把握することで、事前に適正な人員配置が準備できる。注文書の入力作業も不要になりミスも減らせる。

JAはシステムの活

紙注文も機械で完結

三重・JA伊勢

用を促すが、紙による注文書も受け付ける。紙の注文について、データの集約にはOCR（光化学式文字読み取り装置）ツールを活用する。RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）と連携させて職員の手を入れずに機械だけで利用申し込みを完結させる。

同JA営農部の喜早光雄部長は「職員が高度な業務に集中できる環境づくりに取り組みたい」と話す。

クラウドサービス上のシステム構築は同JAのIT・DX対策課の職員が行った。

JAは持続可能な経営基盤の確立・強化に向けた「3Cプログラム」で業務の効率化を進める。クラウドサービスを導入し、昨年度は水稲苗の注文などを電子化した。

（三重・伊勢）